

7月例会は、海外に出掛けていたため、ミニたまむしの配布を行わず申し訳ありませんでした。ただ6月例会の報告など、記録に残しておきたい内容もあるので、後追いですがNo. 496として纏めておきます。(総務幹事：田中和夫)

【7月例会】

日時：平成31年7月9日(火)(第2火曜日) 午後6:30~8:30

場所：吉祥寺、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室

一人一話

今月は、出席者それぞれが、自由な内容で数分程度お話をする「一人一話」と致します。

【今後の例会予定】 午後6:30~8:30

例会

8月20日(火)(第3火曜日、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室)

講演：後藤健氏「森と人との伐っても切れない繋がり」

9月10日(火)(第2火曜日、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室)

10月8日(火)(第2火曜日、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室)

11月19日(火)(第3火曜日、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室)

忘年会・セリ会

12月8日(日)(第2日曜日、立川パレスホテル)

観察会ほか

7月31日(水)~8月1日(木)親子合宿立川市八ヶ岳山荘(育成企画)

8月10日~25日(日)仮称「子供の昆虫作品展」高尾駒木野庭園

8月22日(木)工作教室高尾駒木野庭園(育成企画)

9月1日(日)秋の採集・観察会八王子高尾周辺(育成企画)

【連絡事項】

1. 『多摩虫 73号』原稿募集中

原稿締め切り：7月31日、

原稿送付先：羽鳥信義(e-mail: hatori-9294@ac.auone-net.jp)

(編集幹事：羽鳥信義、宮川勉)

2. 『2019年夏合宿』

2019年7月6日(土)~7日(日)、立川市八ヶ岳山荘にて実施されました。

3. 『秋の採集・観察会』

9月1日にクロコノマチョウの幼虫採集観察会を高尾周辺で実施します。

4. グループ多摩虫の新しいメーリングリスト開設のお知らせ

GMOが運営するfreemlメーリングリストのサービス終了により準備を進めておりました〈新しいグループ多摩虫メーリングリスト〉を開設致しました。

既に新メーリングリストへの皆様のアドレス移転作業は完了済みで、登録の再設定などは必要ありません。ただML投稿の際に使用するアドレスは、以下に変更となります。

tama64@ml.tama64.info 詳細は改めてお知らせします。

(IT幹事：中村・鈴木・渡邊)

5. 『子ども昆虫作品展』参加者募集中』 詳細は、別紙案内を参照の事。

夏休み特別企画として「子ども昆虫作品展」を開催します。対象：高校生以下、小学1年生以上。

日時：8月10日（土）～25日（日）午後2時まで。 場所：高尾駒木野庭園

応募：7月13日（土）までに、事務局または実行委員会にお知らせください。

最優秀賞・優秀賞・佳作・特別賞：表彰状と副賞、応募者全員に参加賞が贈られます。

（グループ多摩虫「子ども昆虫作品展」実行委員会）

『会員動向』

本会会員の小出雄一氏が6月25日、入院中の沼田市の病院で逝去されました。

享年80歳。心よりご冥福をお祈りいたします。

『グループ多摩虫 6月例会』 実施報告

6月18日（火）武蔵野公会堂で開催され、梅雨の晴れ間の採集・撮影・観察日和でしたが、32名の会員が出席されました。また、入会検討中の青木航太さんとお母様の和美さんが見学されました。

冒頭、新津会員から、「ミノムシ探しています」として、オオミノガの産卵囊採集への協力依頼がありました。詳細は添付のペーパーをご覧ください。

本題に入る前に宮内幹事（企画担当）から、企画担当で話し合った結果、今回は少し趣向を変えて、いつもの様なカチツとしたプレゼン形式ではなく出席者参加型のトーク形式で、高尾山での虫の状況などを題材にやってみたいとの説明がありました。

1. 齋藤 秀明（夏野蛾多）氏「高尾山、採集今昔」

まず、話題提供を兼ねて、高尾山などで蛾の採集会を開いておられる齋藤会員から、採集の思い出話などを聞かせていただきました。

蛾に興味を持ったのは、1960年代の初め、山形の有名な採集ポイントである盃山の向かいにある山形放送局に勤務したときだったそうです。放送局は、曰く「年 midpoint 灯の巨大ライトトラップ」と化しており、未だ新種登録されていなかったタニガワモクメキリガ（1970年に新種登録）をはじめ、カトカラ31種中24種を採集したとのこと。

本格的に蛾の採集をするようになったのは1980年代半ばだそうです。高尾山に行くようになったのは、「タカオ」と名のつく4種、タカオシャチホコ、タカオケンモン、タカオシロヒメシャク、タカオキリガを採りたかったからとのこと。なお、日本には37科6,200種、世界には120科16万種の蛾がいるということです。

最初は、日本鱗翅学会関東支部の紹介を得て、松田邦雄氏、神保一義氏ら5名の方々とともに40?もある発電機などを抱えてケーブルで通ったそうです。やがて、車の通行許可を得て楽になったとのこと。1997-2000年の間に62回通い、20科374種の蛾を採集したということです。

グループ多摩虫に入会したのは2006年で、2011年から「高尾山の虫と蕎麦を楽しむ会」、2012年からは「フユシャク探索会」を始められ、これまでに各々32回、8回と回数を重ねてきているとのこと。写真で採集の様子を紹介しつつ、両会は「若手新人を誘引する最適トラップである」とのお話をされ、脱帽でした。

2. 渡辺 隆氏「ホメロスアゲハ」

続いて、渡辺会員から、ワシントン条約（CITES）の付属書?に掲載され、商業目的の輸出入が禁止されているホメロスアゲハの探索や標本の寄贈について興味深いお話を伺いました。かつて家電メーカーに勤務し、米国に駐在していた1980年の初めから半ば過ぎまでのお話で、ホメロスアゲハが付属書?に掲載された1987年以前のことだそうです。

米国の鱗翅学会とニューアークの昆虫同好会に入り、米国各地に採集に行ったとのこと。ただ、私

有地に勝手に入ると銃で撃たれる危険もあるので、地元の方と一緒に掛けたといいます。また、皆さんの採集用具が粗末なのに驚き、志賀昆虫社のサオを差し上げたら喜ばれたとのこと。流石は「ジャパーニーズビジネスマン」という感じですね。

ホメロスアゲハを採りにジャマイカに行ったのは1985年の11月だそうです。一緒に行ったのが商売敵の家電メーカーの方だったというのは、虫屋どうしの絆も感じられる微笑ましいお話です。そして、事前に採集経験者から聞いた話をもとにレンタカーで向かったのが、コーヒーで有名なかのブルーマウンテンの麓だったそうです。

しかし、残念ながらホメロスアゲハは採れなかったとのこと。写真を見せていただいた標本は、メスは農家のおばさんから、オスは現地の採集人から買ったものだそうです。その採取人によれば、成虫は5-6月と9-10月に現れるが、朝と夕方しか飛ばないので、数時間歩いて川の源頭部まで遡り、そこに泊まり込まなければ採れないとのことだったそうです。

そのホメロスアゲハの1ペア、帰国時に持ち帰りはしたものの、その後に付属書?に掲載されてしまってどうすることもできなくなり、東京大学総合博物館に寄贈するのが最善と判断されたとのこと。手続きなどが終わり次第、現物を引き渡す予定だそうです。このほか、収集された蝶の切手の一部も回覧していただきました。

3. 高尾山などの昆虫に関する懇談

その後、渡辺幹事（企画担当）の司会進行により、高尾山の昆虫を中心に例会出席者から自由にお話をしていただきました。

まずは、10年以上にわたって裏高尾に住んでおられる杉山会員から、今年は雨が少なく川が干上がったようになってしまっていて虫が少ないとお話がありました。また、高尾山では蝶の発生木などの梢や枝が伐られてしまったと、地元自治体の眺望・観光優先の姿勢を指摘され、出席者の多くが頷いていました。

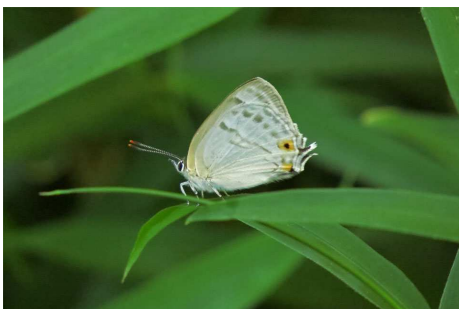
続いて、同じく八王子市在住の木野会員から、石砂山のギフチョウについて、山の南側でもみられるようになるなど増えている印象があるとのことでした。また、フジミドリシジミの高尾山での有名な撮影ポイントの木の枝が伐られてしまい、初めて写真は撮れたものの残念だとお話がありました。

また、トンボが得意な加藤会員や倉地会員からは、高尾山でのムカシトンボの生息状況や撮影の難しさなどについてお話がありました。

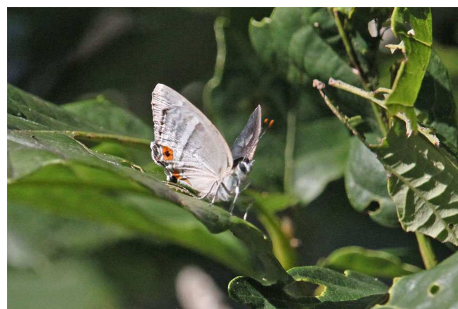
このほか、スギタニルリシジミ、ウラミスジシジミ、ウラキンシジミなどの生息状況など、出席者間で話がはずみました。

例会の後は、いつもの「さかなや道場」で懇親会が開催されました。（文責：後藤 健（企画担当））

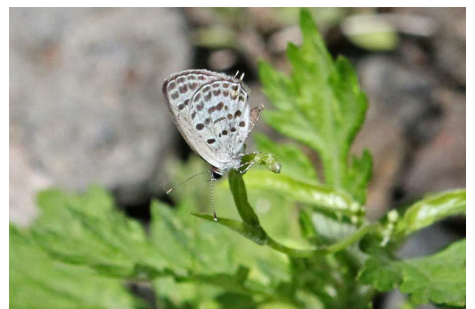
『6月の蝶』： 6月25日、三草山（大阪府能勢町）及び、名古屋市西区にて撮影



ウラジロミドリシジミ



ヒロオビミドリシジミ



ムシャクロツバメシジミ

6月例会

6月18日



例会の風景

「高尾山、採集今昔」

「ホメロスアゲハ」



齊藤秀昭さん

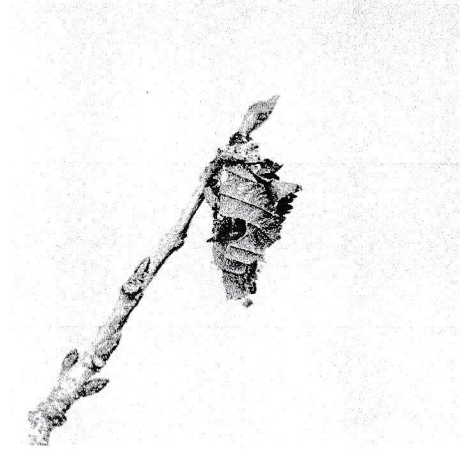


渡辺隆さん

ミノムシ探しています

オオミノガの産卵囊を探しています。

オオミノガとはミノムシの一種です。関東地方では6月中下旬がオオミノガの産卵囊の採集シーズンです。もし発見された方は、枝ごと採集の上、メールにてご連絡頂けないでしょうか。その際、可能であれば、ミノの写真をお送りください。



連絡先：

AKI INOMATA

info@aki-inomata.com

〒101-0022 東京都千代田区神田練塀町 3
富士ソフト秋葉原ビル 12 階

<チャミノガとの見分けかた>

チャミノガが枝に対して45度につくのに対し、オオミノガは垂直に下垂します。見分けが難しければ、まずは写真をお送り頂けると大変ありがたいです。

<用途について>

産卵ミノが見つかった場合、卵を還し、生まれた幼虫の一部は採取地に戻し、一部を飼育します。(飼育した幼虫は一部を研究者に譲渡予定です。)うち数匹を十和田市現代美術館にて今秋から展示予定です。

十和田市現代美術館 AKI INOMATA 個展の情報

<http://towadaartcenter.com/exhibitions/aki-inomata/>

ご協力、どうぞ宜しくお願い致します。

AKI INOMATA